

# 「理屈」と「気もち」

下の写真は、生徒たちが一時間目の体育の授業に出かけている時の一年B組の教室です。整然としている様子がわかると思いますが、そう印象付けているのが机上のジャージです。机や椅子の上に載っている全てのジャージが、左上の写真のように美しくたたまれていました。朝の会が終わって一時間目の授業が始まるまで、たった十分しかありませんが、一年B組の生徒は整理整頓をおろそかにせず、ベストを尽くしているようです。



どうせまた着るのだから、たたまなくてもよいのではないかと考える人はいませんか。確かにそうですね。乱れていても自分がよければいいという考えもあるでしょうね。それは「理屈」です。「どうせまた着るから」「自分がよければ」というのは、乱れている事実を正当化するためのいいわけにすぎません。

私たちの生活の中には、「理屈」が通る部分と通らない部分があります。全てを「理屈」で通そうとすると、周りの人たちを不快にさせたり、自分の生活レベルを低下させたりすることになります。最近よく話題になる「ゴミ屋敷」はその典型でしょうね。住人は「それは資源だ」とか「私にとっての宝だ」と言いますが、それが「理屈」。現に悪臭や通行妨害等で、周りが不快感や迷惑を被(こうむ)っているのは事実です。

ジャージをたたむことは「理屈」ではありません。「気もち」です。「なぜたたまなければいけないのか」と尋ねる時点で「理屈」を求めており、百パーセント納得する答えは到底見つからないでしょう。あなたの家では、干した後の洗濯物はどうなってますか。美しくたたまれ、次に気もちよく来てもらえるようにスタンバイされていませんか。最も着ている時間の長いジャージも、汗や泥で汚れたクラブのユニフォームも、そして、洗濯かごに入れるだけの下着類も、次に身に付けるときには、洗濯が完了し、いつもの場所にきれいにたたまれているのではないですか。

それらを気もちよく身に付けて、新たな一日が始まっているはずですよ。あなたの気もちがリセットされているはずですよ。だから、美しくたたんでおくべきなのです。

一年B組の教室では、チヨーク受けも美しく掃除してあり、チヨークもそろえてありました。こういう教室なら、私は授業をせひやってみたい、こういう教室を作り上げられる生徒たちと授業を作ってみたいと思います。理由は至ってシンプル、「気もちいいから」です！

(十月二十八日記)

